

〔家保のページ〕

がんばれ長久牧場！

1 プロフィール

今回ご紹介する長久牧場は、鳥取県境の新見市神郷高瀬地区に、肉用牛の生産振興を図るため、平成14年度～16年度にかけて総事業費約5.5億円で、草地林地一体的利用総合整備事業により建設されました。

<主な整備内容>

草地造成整備17.4ha、野草地整備2.5ha、放牧林地15.6ha
隔障物 7960m、畜舎 1棟(約1110m²) 他関連施設・機械

繁殖牛は平成16年度から2年間で育成を含み62頭導入し、全て除角しています。子牛は平成17年2月第1号誕生以来、年々増加していますが、分娩後数日で親子を分け(超早期母子分離)、手作りのハッチで1頭ごと人工哺育し、離乳後は4～6頭程度の群で飼育します。

2 立ち上がり

子牛の管理に限らず、繁殖牛の発情観察・お産・草地管理・・・と牧場業務は複雑



多岐に渡っており、新生牧場にとって疾病への対応は特に大変なことであったと思います。日齢の小さな子牛では下痢がもとで生死をさまよう事態に陥ることもあり、症状を悪化させないためミルクを切って治療→本来の給与量までなかなか戻せない→再発でまたミルクを減らす→お腹のグルグルピーピー

高梁家畜保健衛生所

ーサウンドが外まで聞こえる→ハッチの中がやけに臭い→スターター欲しくない→発

<子牛の課題>

- ①下痢の多発
- ②発育の大幅な遅延
- ③治療の労力と経費
- ④子牛市場の評価

育は遅れ、離乳後スカッと食い上がらない。といった悪循環に陥っていました。

3 体測とバーンミーティング

当初、体測や検討会議が行われていましたが、農場の担当者の交代や業務都合により中断状態でした。そこで、平成18年秋以降毎月1回の体測(体重・体高。途中から胸囲・腹囲追加)を行い、その場でグラフ化するとともに気づいたことを出し合い、関係機関と管理スタッフが問題点を共有するようにしました。

<キーワード>

- ①コクジウム駆虫プログラム、添加剤の利用
- ②下痢の発生を抑制
- ③ミルクの給与量確保(高蛋白低脂肪ミルク)
- ④飼料の嗜好性と吟味
- ⑤初期発育の改善

4 競り食いの効果

哺育期に困っていた下痢をコントロールし、早期からスターターに慣らして、単飼から群飼への編入もストレス軽減のため、日齢でなく同時に行うよう改善されています。群飼では早い時期から競り食いが始まり、気持ちが良いほどの食べっぷりで、表は平成20年度(4月～10月)の平均値で、胸囲-腹囲の差も十分あり、第1胃の良好な発達が伺われます。

<胸囲-腹囲の差>

	去勢	雌
3-4ヶ月齢	24.7	23.6
5-6ヶ月齢	29.3	31.8
7-8ヶ月齢	34.6	32.1

5 成果

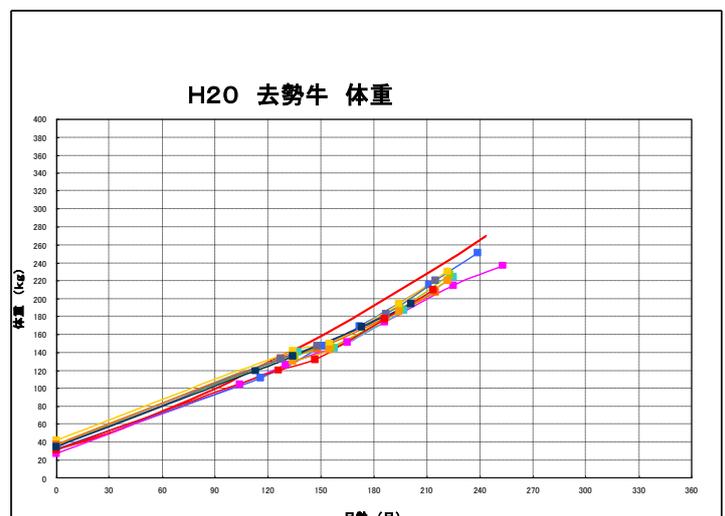
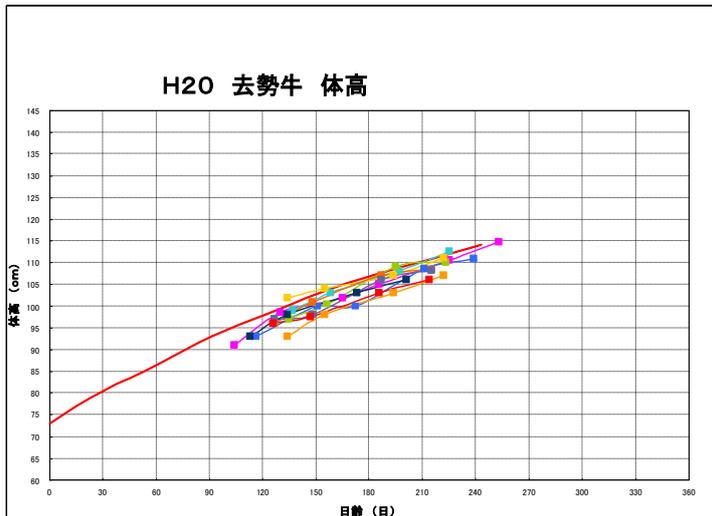
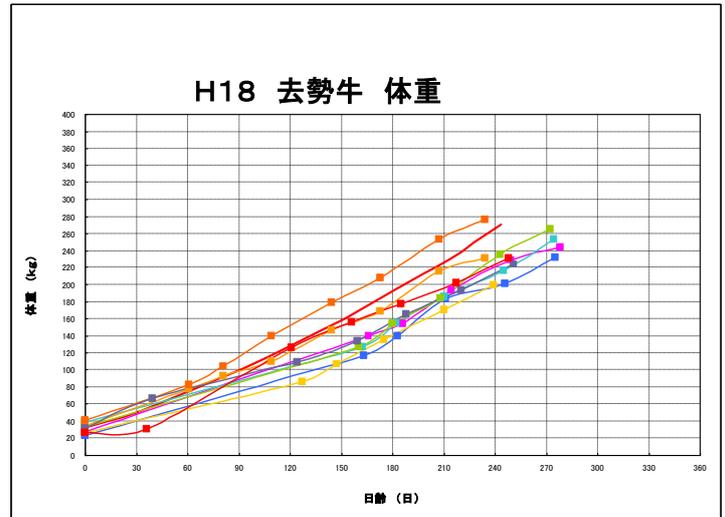
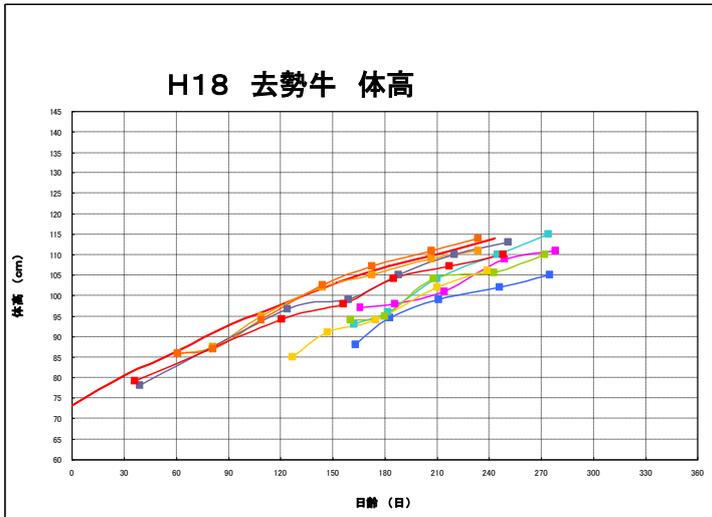
左図の平成18年度と平成20年度の体測結果からわかるように、バラツキが年々小さくなって目標ラインにも近づいており、子牛の発育が改善されています。これまで発育が遅れていたため、子牛市場への出荷日齢も遅れがちでしたが、今では目標の8ヶ月齢で出荷出来るようになりました。

さらに過去の発育遅延を払拭するかのよう、先般の平成20年度県畜産共進会において長久牧場の第41ながひさ号が、若雌第2区の優等賞2席に輝いたことは大きな励

みです。

このように成果が徐々に始まっていますが、紹介した取り組み以外にも、診療から種付けまで支えられている地元の開業獣医師、極寒期に分娩が集中した際里子で受け入れ助けてくれた大型一貫農場の皆さん、共進会の出品の手ほどきをされた和牛改良組合の皆さんをはじめ多方面からの支援と牧場スタッフの努力の賜と思います。

また長久産素牛の肥育成績が出始めており、表のとおり良好な成績も見られています。



最後に、11月から本牧場の管理が、神郷農業公社から新見市の指定管理者となった阿新農協に移り、子牛市場に長久牧場産の子牛が見られなくなるのは残念ですが、地域内一貫体制として繁殖－肥育の結びつきが強化され、改良増殖のさらなる向上が期待されます。

